

誕生から半世紀で全面建替え 再び最先端の団地に生まれ変わる

JR中央線荻窪駅から徒歩13分の場所に「荻窪団地」ができたのは1958（昭和33）年のこと。中層4～5階建ての建物が並び、当時、最先端の高級賃貸住宅として人気を集めた。1960年には、日本住宅公団（現UR都市機構）の団地としては初めて固定電話が開通した。総戸数は875戸で、一番多いのは2DKの部屋だったが、1Kや1DKの部屋が4割以上を占めていたこともあり、平均専有床面積は29.97㎡だった。

それから、半世紀を経た2011年、建替えによって「シャレール荻窪」が誕生した。建物は4階建てで中層を継承。敷地面積が約6.3haから2.5haに減り、1戸当たりの専有床面積を増やした結果、総戸数は411戸になった。1K～3LDKのバラエティーに富んだ部屋が設けられ、平均専有床面積は57.21㎡に倍増した。


半世紀の歴史によって育まれた樹木などの荻窪団地の自然を受け継ぐと同時に、UR都市機構が取り組んできた屋上緑化や雨水活用などの環境配慮技術を結集したシャレール荻窪。2012年にグッドデザイン賞を受賞するなど、再び最先端の団地に生まれ変わった。



荻窪団地の空撮写真。当時木造が主流だった中であって、鉄筋コンクリート造の荻窪団地は、憧れの住宅だった



シャレール荻窪は、荻窪団地で成長した大木を保存・移植するなど、地域の環境資産を受け継いだ

都市デザインポータルサイト・シャレール荻窪のRenovation 
<https://www.ur-net.go.jp/urbandesign/project/danchi12.html>